

病院内での医師との連携や活動状況等



恵寿総合病院 看護部
看護師特定行為研修修了者 中河健一

Keiju Healthcare System

はじめに

自己紹介

恵寿総合病院 循環器病棟勤務 看護師 中河健一

2019年に恵寿総合病院での第3期生として看護師特定行為研修を修了。

修了した看護師特定行為研修区分別

「呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連」

「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連」

「動脈血液ガス分析関連」

※以後、看護師特定行為研修修了者を「特定看護師」と表記します。



恵寿総合病院での特定看護師

2022年3月での全国における特定看護師は4.832名。

当院では2017年9月末に特定看護師の第1期生が誕生して以降、2022年3月での特定看護師は25名（当院看護師の8.3%）が在籍。

県内での特定看護師は94名。当院ではその内の26.6%を占め、県内で一番多くの特定看護師が在籍し活動。

※当院では2022年10月新たに4名の特定看護師が増え計29名となった。

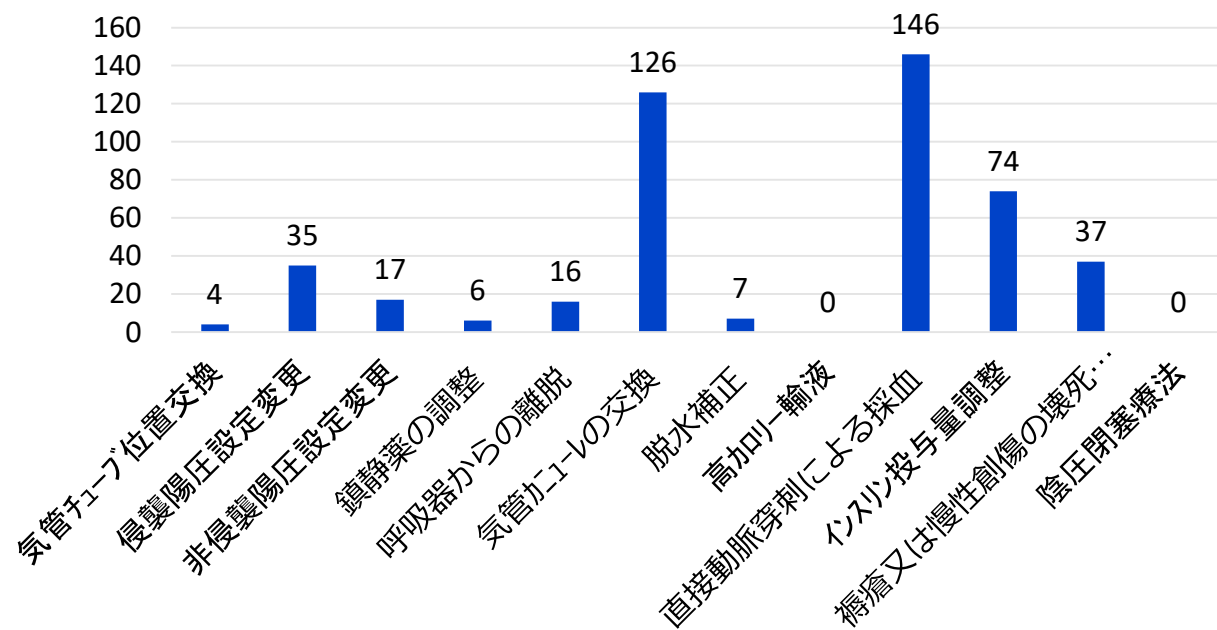


2021年度の活動状況

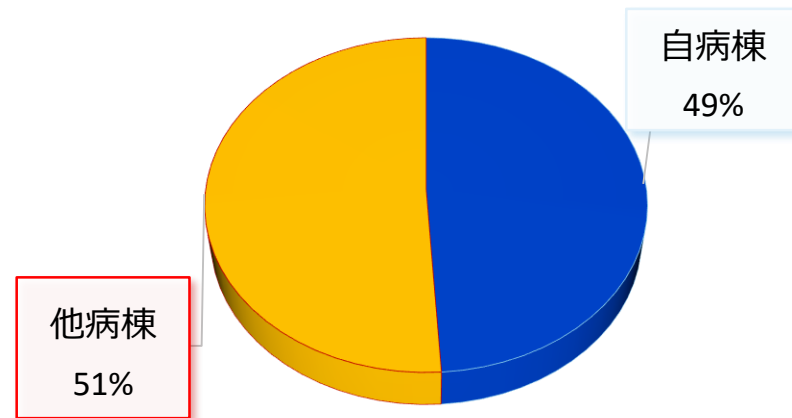
2021年度集計

- ・患者数：118名
- ・特定看護師介入件数：468件
- ・延べ介入時間：171時間25分

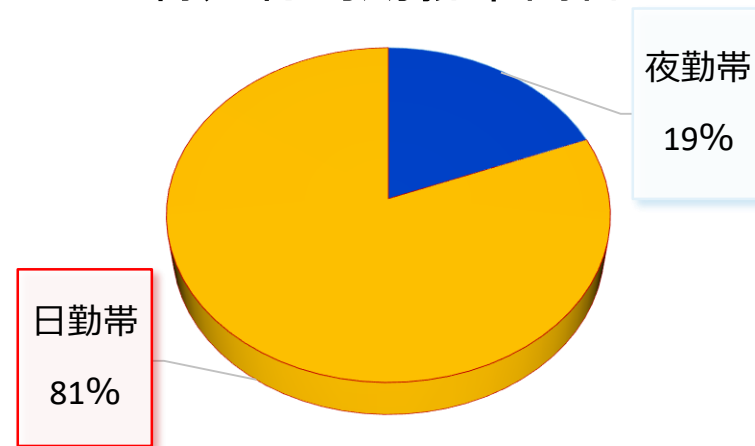
特定行為区分別介入件数



特定行為活動場所



特定行為勤務帯割合



直接動脈穿刺による採血



直接動脈穿刺による採血・146件・特定看護師10名

【手順書に係る特定行為の対象となる患者】

- 呼吸回数の増加が認められた場合
- 経皮的酸素飽和度の低下が認められた場合
- チアノーゼが出現した場合
- 意識障害が認められた場合
- 何らかの原因で経皮的酸素飽和度の測定が適切にできない場合
- 酸素濃度の低下及び二酸化炭素濃度の高値が疑われた場合
- 酸・塩基平衡の障害が疑われる場合
- 電解質異常が疑われる場合
- 静脈血採血が困難な場合
- 上記のどれかがある場合

直接動脈穿刺による採血の実施例について

①事前に医師より指示・オーダーがある場合

- ※医師の病棟来棟予定時間に合わせ指示があり事前にデータ準備できる
患者への指示をスムーズに頂け素早い対応が取れる
- ※事前に指示・オーダーがあれば他病棟へ出向き横断的に介入できる
「静脈血採血が困難な場合」にも依頼あれば対応している

②介入許可のある患者に、特定看護師が手順書に従い行為を実施する場合

- ※医師のいない時間帯でも特定看護師が患者の状態をアセスメント
特定看護師の判断でスピード感を持って介入し医師へ報告
患者にとっても素早く医師からの指示が提供できるメリットがある
人工呼吸器からの離脱に向けた特定行為と共に動脈穿刺採血を実施
本館4F急性期病棟では特定看護師も多く在籍し切れ目少ない対応が可能

気管カニューレの交換



気管カニューレの交換・126件・特定看護師9名

【手順書に係る特定行為の対象となる患者】

気管開窓術後、または、気管切開後、1カ月を経過して瘻孔が完成した気管カニューレ挿入中の患児・患者

【看護師の診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 何らかの原因でカニューレが抜けてしまった場合
- カニューレのカフ等の破損があり、交換が必要な場合
- カニューレが乾燥した分泌物等で閉塞した場合
- カニューレの定期交換→事前に医師と役割分担を行う

気管カニューレ交換の実施例について

① 定期のカニューレ交換

※対象となる患者へ2週間に1回でのカニューレ交換を実施
事前にカニューレ交換の予定表を作成して担当を割り振り
安全面を考慮し基本的には特定看護師2名での実施としている
瘻孔の状態や痰の性状など何かあれば担当医師へ適宜相談

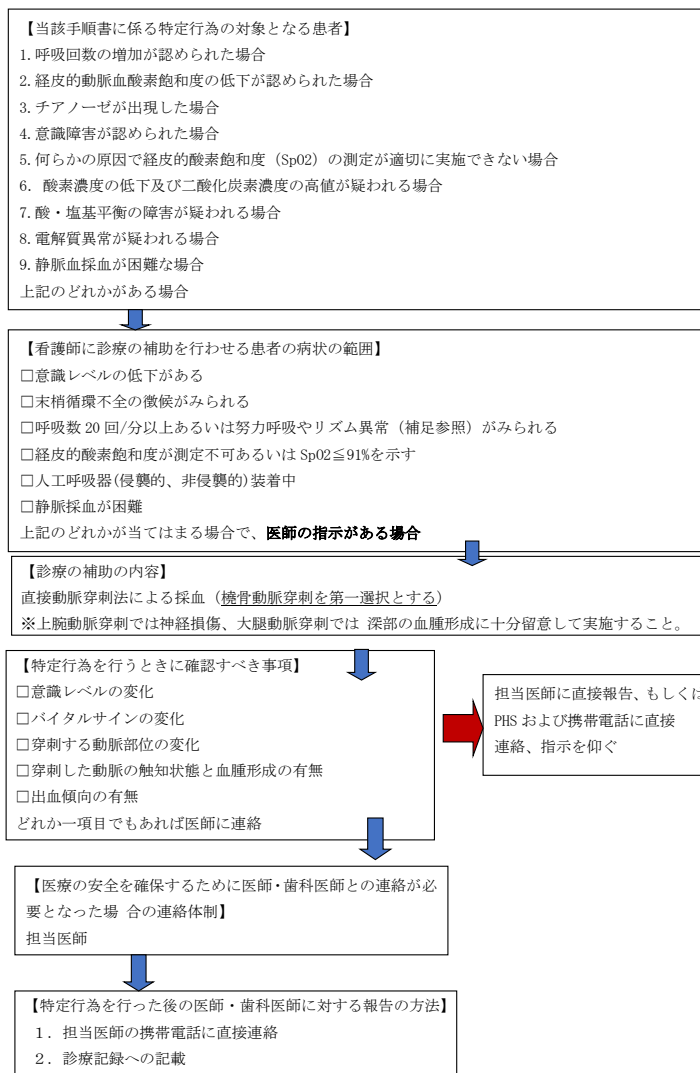
② 緊急のカニューレ交換

※夜間帯に緊急でカニューレトラブルが発生したことがある
特定看護師の勤務表を確認し名前があれば依頼がある
緊急でのカニューレ交換実施後は速やかに医師へ連絡し状態を報告する
緊急時にそれぞれの特定看護師が適切に対応できるようにしたい

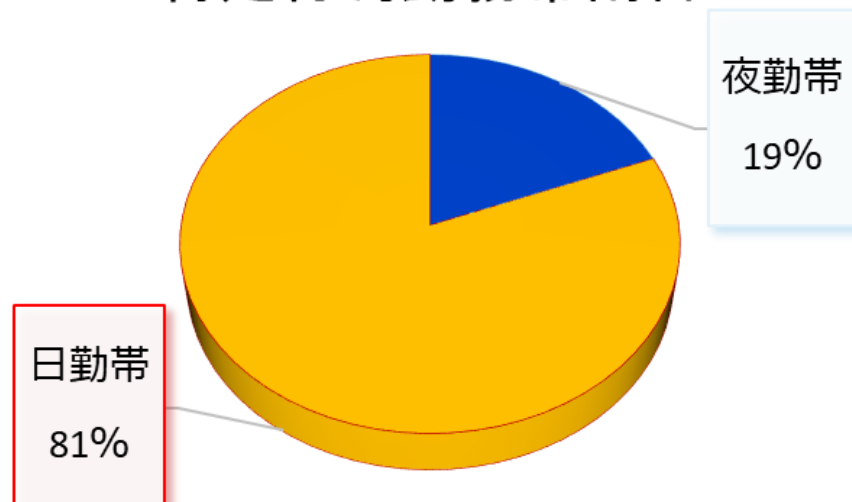
※介入件数126件は集計方法により、気管カニューレ交換は基本的に特定看護師2名で実施。両名がそれぞれ介入データを入力しており、1患者のカニューレ交換1件でも特定看護師の介入は計2件と入力されています。

院内での手順書と医師との連携

<看護師特定行為手順書：直接動脈穿刺による採血>



特定行為勤務帯割合



「医師との連絡体制を確認し実施」

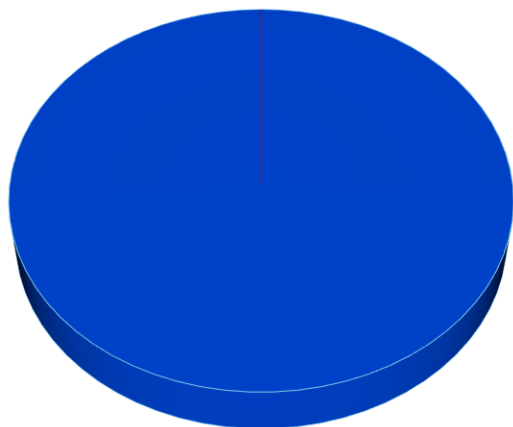
何かあれば医師へ報告し対応を依頼できる
 経験を積み重ねることで自信が生まれる
 実施内容を報告し患者にとって良い結果が
 得られたときの達成感は大い
 医師との信頼関係を築いていきたい

特定看護師について医師へアンケート調査を実施

2022年10月にアンケートを実施
＜医師の回答件数は17件＞

看護師特定行為について知っていますか？

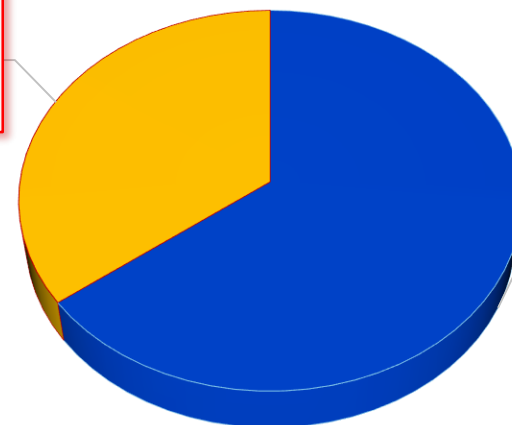
いいえ
0%



はい
100%

看護師特定行為の電子カルテでの指示をご存知ですか？

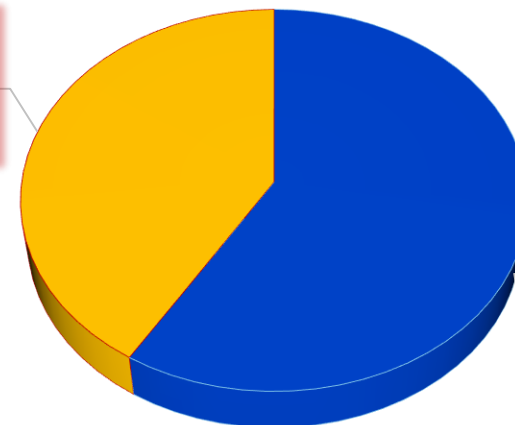
いいえ
35%



はい
65%

看護師特定行為を依頼したことがありますか？

いいえ
41%



はい
59%

特定看護師について医師へアンケート調査を実施

「看護師特定行為を依頼したことがありますか？」の質問で『はい』と回答頂いただいた先生に看護師特定行為の依頼をしてよかった点、悪かった点があればお聞かせください。

<8件の回答>

- ・血液ガス検査結果をすぐに確認できることや、人工呼吸器の設定変更、離脱の際に対応していただけてとても助かりました。
- ・人工呼吸器からの離脱がスムーズに。
- ・医師業務負担が減って大変助かった。
- ・自分の時間に余裕が出るので助かる。
- ・大変助かりました。ありがとうございます。
- ・脱水症状に対する輸液による補正：主治医が点滴オーダーを入れるよりも水分バランスや電解質等のことをしっかり考えて適切に輸液による補正をしてくれた。
- ・脱水に対する抹消点滴のような連日の観察が必要な患者さんで、単一の担当者だと勤務により穴ができる点。
- ・医師の業務負担軽減、患者の病棟移動で、特定行為がしてもらえなくなることが多い。

特定看護師について医師へアンケート調査を実施

「看護師特定行為を依頼したことがありますか？」の質問で『いいえ』と回答いただいた先生に看護師特定行為の依頼しなかった理由をお聞かせください。

<6件の回答>

- ・ 症例がいなかった。
- ・ 依頼のしかたがわからないから。
- ・ 職域上、患者に携わることがなく依頼する行為がないため。
- ・ 必要機会がなかった。
- ・ やり方がわからない。必要な場面を知らない。
- ・ 知らなかったから。

特定看護師について医師へアンケート調査を実施

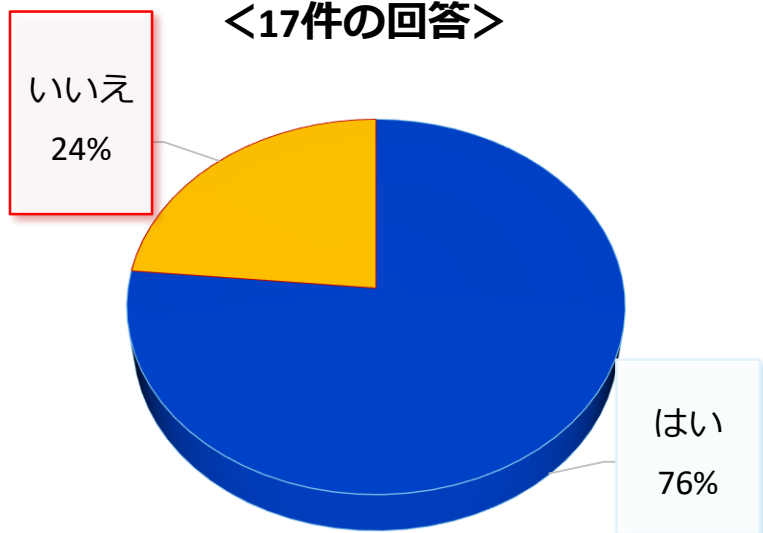
「今後、特定看護師に対して期待することはありますか？」の質問で『はい』と回答いただいた先生に質問です。どのようなことを期待しますか？

＜12件の回答＞

- ・ クリニカルパスを特定行為に組み込み、さらに活躍の場を広げてほしい。病院全体への認知度をさらに上げてほしい。
- ・ 医師からのタスクシフト。看護師全体の知識やスキルのボトムアップ。
- ・ 創傷管理が的確に行われることを期待する。
- ・ 実施可能なものはすべて特定看護師が行うこと。
- ・ 特定個人に頼らないチーム制。
- ・ 輸液に関するところ。
- ・ PICC挿入をお願いします。
- ・ 医師不在時の急変時対応。
- ・ どの病棟でも同じ行為をすること。

今後、特定看護師に対して
期待することはありますか？

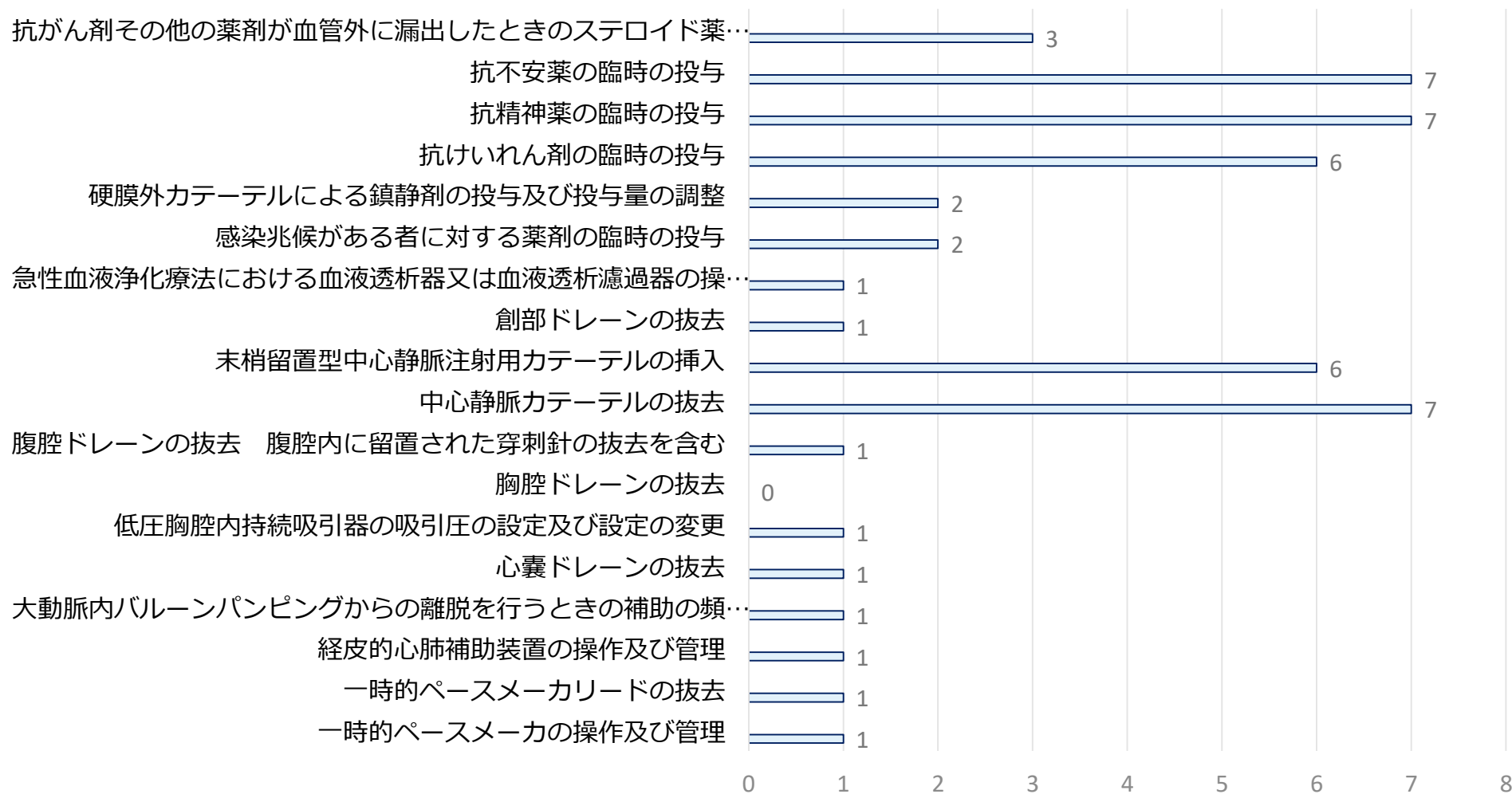
＜17件の回答＞



特定看護師について医師へアンケート調査を実施

今後導入してほしい特定行為があれば教えてください。

<13件の回答>

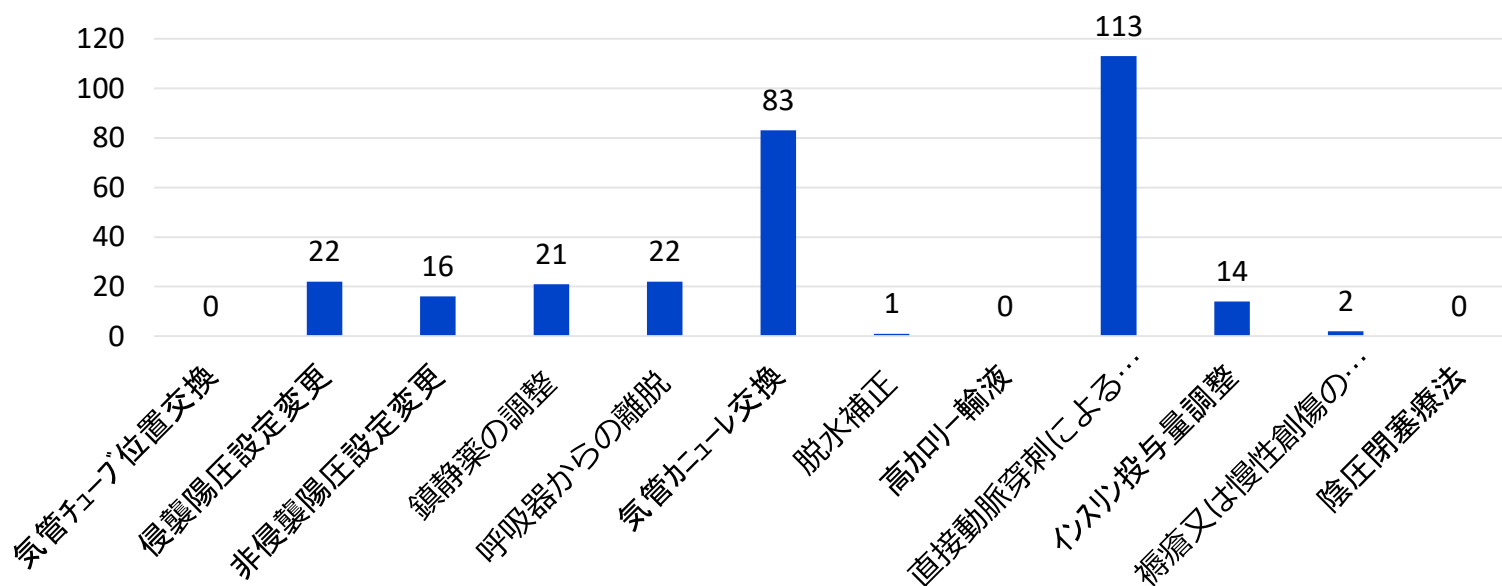


2022年度の上半期活動状況

2022年度集計：4月～9月

- ・ 患者数：113名
- ・ 特定看護師介入件数：294件
- ・ 延べ介入時間：128時間58分

特定行為区分別介入件数



前年度と同じく件数を重ねているが「できていること」「できていないこと」がある区分ごとに多くの課題を抱えて活動を続けている

特定看護師の活動7年目の現在と今後の課題は



特定看護師だけでなく、看護師全体のレベルの底上げが必要不可欠

ご清聴ありがとうございました。